

1977年 10月14日

様

東大海洋研究所資源生物部門
水江一弘

拜啓

10月も中旬になりました。世の中はすっかり秋らしく落ちつゝ参りました。貴殿には、その後も益々御健勝にて御健斗のことと拝察致し、およろこび致します。

さて、9月29日、30日の両日、当研究所で開催致しました「板鰓類の分類および生態・生理に関するシンポジウム」は、おかげをもちまして非常に盛会でした。また、このシンポジウムに、都合で御出席出来なかつた方々からも、このシンポジウムの状態やその後の方針について色々とお問い合わせが御座りました。このことなどは板鰓類研究に關する一般の関心の高さを物語つてゐると思います。しかし、一方では、板鰓類についてのこの種の研究集会は、恐らく日本では最初のことであり、そのために、このシンポジウムでは板鰓類全般についての話題が広く提供され、いかにも、問題が分類・生態・生理と大変広い範囲にわたつておりまゐるので、議論をいぼることが困難であり、焦点がぼけてしまいました。また、討論の時間が殆んどない様な状態でした。此等の点は、貴殿には十分に満足のいくシンポジウムとは云々難いのではないかと恐縮し、主催者として大いに反省にいます。

所で、このシンポジウムの期間中に自然発生的に「板鰓類研究グループ、又は談話会又は懇話会など」を作つては、と云う声がホウハイと起りました。

板鰓類の研究は今まだ夫々の研究者が殆んど他との連絡もなく独りでボソボソと何やらやつてゐると云う様な状況で行なわれ、全体的に見ても、それこそ細々と破線的に研究を続けつゝと云う現状でした。しかし、板鰓類と云ふ分野は硬骨魚類に比べれば勿論ですが、水棲哺乳類に比べさえも非常に知見が少く、今後究明しなければならぬ基礎的研究が山積にいます。一面が云へば、極めてやり甲斐のある面白い分野ですが、しかし、この分野の学問を進歩させ産業的にも今後板鰓類を利用するためにも、先づ研究者各自が

板鰓類についての知見を積み重ねることが緊要であると痛感しますが、
 そのためにも、既往の文献や資料の交換を行うべく、各研究者が連絡を
 密にし、自己の守備範囲をきめて、研究者としての最大の努力を傾けることが、
 この分野の総合的な研究をのばすゆえであると確信しています。
 従って、殆んど大部分の出席者の声として、板鰓類研究グループを
 作るという方向の意見が一致した事は誠に当然のことであり、誠に
 結構なことであると思います。シンポジウム終了後、石山・谷内・
 仲谷・牛島等の諸先生と共に、この件に関し大いに努力しよう
 と我々も誓い合つた次第です。

シンポジウムの最後に板鰓類研究グループについて皆様から
 いただきおいた御意見を総合しますと

- ① 長続きな気楽な研究連絡会にすること。
- ② 奉仕の精神を持った世話人をきめる。
- ③ シンポ又は研究連絡会を定期的に持つこと。

以上の3点が要点であつたと思いますが、このうちの②を私の所の
 部門が今後4年間で御引き受け致すことになりまして、どうぞ
 心から御遠慮なく何れも御気付きの点を御話し下され、
 御申しつけ下さい。皆様が板鰓類についての御自分の御研究に
 役立つ様に最大限の努力をしようと思つていますし、到つて気楽な
 かたぐるにたい、何でも自由にしゃべれる会にしたいと思つておるので、
 どうぞ御協力下さいませ。

つきおいては、先づこの御趣旨に御賛同下さりまして、共に
 この分野の研究発展のために努力な意志のある方の名簿などを
 作りたいと思つておるので、恐縮で御座りますが、別紙プリント用紙に
 再度御記入の上、御返送下さる様におねがひ申し上げます。
 尚、貴殿の御勤務先などの御知合いの方で、板鰓類に御興味
 をお持ちの方がいらついたら、御手数ながらこの御趣旨
 を御伝え下されば幸甚に存じます。

大変簡単で御座りますが先は用件のみで失礼致します。

敬具